

「あうち」の意味するもの

先に訪問した養護学校の「校長室だより」のタイトルが「あうち」であった。「あうち」とは何で、どういう意味が込められているのかを、あるメル友に聞いたところ、以下のよう教えていただいた。

「『あうち』とは、莊子の『吾に大樹有り、人之を樗（あうち）と謂う。其の大本は擁腫（ようしょう）して縄墨（じょうぼく）に中（あた）らず、其の小枝は巻曲して規矩に中たらず。之を塗（みち）に立つれば匠者顧みず・・・』（逍遙遊編）からとったものだそうです。

どうしようもない曲がった木で、大工も目もくれないような木でも、切られることがないのだから何も無い野原に植えたら、成長し大木となり、木陰を作り、さぞやゆっくりとその下で休むことが出来るであろう、世間的に無価値なものであるからといって何も気に病むことはない。

『無用之用』（老子）と類似した意味でしょうか？」

いろいろ考えさせられますね。

（2003年02月18日 記）